# B747 の想い出　その 2　747 回目のフライト

荒岡　衛

B747 には 376 回搭乗している。中でも印象深いフライトの一つは 1994 年 7 月 31 日の JL371 便で私にとって 747 回目のフライトである。搭乗回数と機種を合わせようとしていたので B747 に乗りたかった。当時長崎に在住、東京への出張で頻繁に飛行機を利用していてこの時も長崎への戻りだった。全日空の東京-長崎線に B747 は就航していたけれど時間帯が合わなかった。それで JL371 便福岡行きを選択した。福岡-長崎を JR で移動するので時間は余分にかかってもその労はいとわない。

搭乗機(機番 JA8903)は 2 階が広い-400 型で、その 2 階最前列席 U61C を取れた。シートベルト着用サイン消灯後、CA に記録用紙を渡して機長のサインを依頼した。目的地は長崎だけど 747 回目のフライトなので B747 を選択して福岡経由にしたことも言い添えた。数分後機長がコックピットに来てくれと言っていると CA に言われた。現在なら法規上乗客が立ち入ることは許されないけれど当時は問題なかった。

コックピット入口は 2 階にあるので席から近い。入ると機関士席に座るように勧められた。B747 の初期型は機長、副操縦士、機関士の 3 人による運航であったが、-400 型はコンピュータ化により機関士は不要で空いていた。そこに座り操縦機器などを説明してもらった。近くを飛ぶ機体がレーダに映っていて、それに近づきすぎるとアラームがでるのを実演してくれた。広島あたりで降下を開始しシートベルト着用サインが出されたので、お礼を言って席に戻ろうとしたら、そのまま到着までそこにいなさいと言われ、着陸を機関士席で体験することができた。

小型機の場合、多客時は副操縦士の席にも客を乗せるから運がいいとそこに座ることができ、私も 10 回ほど経験している。ただし飛行時間は短い。大型機で飛行中にコックピットに入ったのはこの時を含めて 3 回しかなく、着陸までしたのはこの時だけである。